



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第48号 令和5年3月16日発行

三和地域の人口・世帯数
 男 1,483人
 女 1,524人
 合計 3,007人
 世帯数 1,632世帯
 (令和5年2月末現在)

発行：三和地域協議会

令和5年度 第10回 三和地域協議会総会 開催のお知らせ

【日時】 4月15日 (土)
 【時間】 午前10～12時 (総会のみ開催)
 【場所】 三和会館ホール 2階
 (三和町千束383)

※今年度の総会は、三和荘改修工事のため場所は三和会館となりますのでお間違えないようお願いいたします。

感染予防のご協力をお願いします。
 (マスク着用・消毒・検温などの実施)



◎お問合せ 三和地域協議会事務局 0773-58-4130 ◎

三和診療所の早期再開を求める

— 福知山市に要望書を提出 —

三和町自治会長と三和地域協議会は、1月19日、令和2年8月から休診が続いている三和診療所(三和町千束)の早期診療再開を求める要望書を大橋一夫市長宛に提出しました。

三和診療所については、翠生会松本病院(福知山市土師宮町)が福知山市と建物の賃貸借契約を結び診療にあたっていましたが、令和2年に電気設備の不備があり以後休診のままとされており、1日も早い診療再開が求められています。

要望の内容は、①市に松本病院が早期に診療を再開するよう強く働きかけてほしい。②松本病院が診療再開を行わない場合は三和地域の医療に関する福知山市の考え方を示してほしい。という2項について、市長に代わって出席された前川二郎副市長に、自治会長の小原一泰会長が要望書を手渡されました。

対応された前川副市長からは「三和診療所は、三和地域の安心安全の砦として認識している。松本病院は再開の意思があるから契約された。地域の思いをしっかりと受け止めこの思いを届けていきたい。」との回答を受けました。

そして再開できない理由として、再開の準備を整えられなかったことや、コロナ感染症に関して発熱外来の設置や、京都府の要請を受けたPCR検査やコロナワクチン接種を上げられました。

この回答に対し、小原会長からは「自治会長会議の中で、自宅と病院の送迎の実施や今年1月からの訪問診療のことについて説明を受けたが、診療所にお医者さんがいてこそ安心して医療を受けられる。コロナで医者が確保できないのも分かるが、三和の地域医療の方策を考えてもらいたい。」

また当協議会の松下正美会長からは、「仮に松本病院が辞退された時の三和地域の医療体制について、市行政としての姿勢を示してほしい。」という問いかけがあり、前川副市長からは「松本病院が再開の意思を示しておられる間は、市は再開を要望していく。」と答えられました。

前川副市長の回答から、松本病院にはコロナの終息により、コロナ対応業務を終えられ、1日も早い診療再開を期待します。また、松本病院に対して福知山市には診療再開を強く働きかけていただきたいものです。



要望書を提出する小原会長と松下会長

みわしまわりライド

累計 (平成29年10月～令和5年2月)

会員登録者数	177人 (内訳:男性39人・女性138人)
利用者数	132人 (内訳:男性33人・女性99人)
運行便数	3,442便
輸送人数	3,841人

みわしまわりライド・サポートの 利用状況をお知らせします!

みわしまわり サポート

累計 (令和3年7月～令和5年2月)

ユーザー登録者数	34人
利用者数	23人
利用件数	81件(ゴミ出し等)



今の気分6タイプの「本の処方箋」



「よみぐすり」問診票



「薬袋」に入れました。いくつかの質問(よみぐすり問診票)に答えて、「本の処方箋」を借りてみませんか?

◎今の気分の6タイプ◎

- ☆スッキリしたいあなたに
- ☆刺激が欲しいあなたに
- ☆泣きたいあなたに
- ☆成長したいあなたに
- ☆癒されたいあなたに
- ☆満たされたいあなたに

☆本との出会いをお楽しみください。

効能には個人差があります。効き目が無い場合には、何回でも処方させていただきます。期間は、3月31日までです。

図書館からの おしらせ

みなさんのリクエストにお答えして昨年に引き続き、大人気「本の処方箋」をはじめ、あなたの気持ちに合わせた本を



大人の本1冊、
絵本1冊だったので
親子で借りて
楽しめました。



昨年の
利用者さんの
感想

ふだん自分で選ばない
本と出会えて
面白かったです。



三和町西松の岩崎さん 新町商店街にピクルス専門店オープン

岩崎さんは、東京を拠点に野菜ソムリエとして活動されていましたが、新型コロナウイルス禍で地方移住を考え、父親が家庭菜園を楽しむために所有していた西松の別荘へ2年前に引越してこられました。そんな中、三和町中出で万願寺甘とうの生産農家をご夫婦で手伝うようになり、その中で規格外の野菜たちをピクルスとして加工食品化したい！と思い、国家資格である食の6次産業化プロデューサーを取得し、福知山まちづくり株式会社とのストックバンク事業で、新町商店街にある空き家物件を加工場兼店舗として改装し、昨年の12月6日に「M SOLE(エムソール)」をオープンされました。ピクルスの種類は7種類で、万願寺、ミニトマト、かぼちゃ、キュウリ、大根、さつまいも、うずら卵で「京都・福知山ピクルス」とネーミングし、瓶詰90グラムで販売されています。



加工場兼店舗「M SOLE」



販売中のピクルス

岩崎さんから

はじめまして、三和町西松に移り住み早くも3度目の冬を過ごしました。父が20年に渡り、巨大すぎる家庭菜園を楽しめたご縁から温かく迎えていただき、ここに暮らしているからこそこの体験がたくさん出来ている今日この頃で、西松の皆さんに感謝です。また、昨秋には規格外野菜をピクルスにするための「京都・福知山ピクルス」が動き出しました。このプロジェクトは、元々、西松のお米を中心に万願寺甘とうなど三和町の農産物を全国の人に召し上がっていただきたい、三和町を知っていただきたいと考え、「食の6次産業化プロデューサー」の資格を取ったことから始まっています。何をどのように発信していくのか、どんな恩返しができるのだろうと試行錯誤する中もったいない野菜をピクルスにする案に行き着き、加工場探しを始めました。中出や千束などで何件か物件を見せていただき、定休日だけ厨房を使わせていただけのご親切にも出会ったのですが手続き上、どうしても難しいことがわかり、三和町のことは三和町で完結したい思いが叶わない事態にも。もちろん、挫折しそうにもなりました。しかし、規格外だからと安価で取引される、また、破棄される農産物にスポットライトを当て、もったいないを解決するという目的からブレてはいけません。どこで加工をしても三和町のは三和町のものであると考えを広く持つことにし、商品化に至った次第です。だからこそ、お披露目の場は「三和フェス」にこだわり、あの場で三和町の皆さんにお披露目できたのが一番嬉しかったです。光栄にもふるさと納税の返礼品にも選んでいただけました。M SOLEの次なる目標は三和町がSDGs取り組みのモデルケースになるようみなさんと一緒に前進することです。最後に大根、きゅうり、サツマイモ、カボチャなどもったいない情報をお待ちしております。 ☆ お問い合わせ ☆ 岩崎さん携帯 090-8200-7681



岩崎真理子さん

出張ふれあい **カフェ & ブックフリマ**
(本のフリーマーケット)
開催します!

4月28日(金) 午前9時~11時
三和会館前にて

前回開催してご好評をいただいた市立図書館三和分館とみわふれあいカフェのコラボカフェを、今年も開催します! さらに今回は、お客さんにお家で眠っている本を持ってきていただく「ブックフリマ」を同時開催予定です!

- ・販売でもおゆずりでもOK
- ・ブースはお一人1m×1m
- ・本は段ボール1箱程度の量
- ・屋外なので敷物やテーブルなど陳列用のものが必要です。また、イスなども必要であればご持参ください
- ・残った本はお持ち帰りください(引き取りは行いません)



参加ご希望の方は、三和地域協議会事務局(三和町農業振興センター1階) 電話 58-4130、FAX 58-4180) までご連絡ください♪

ラジオは 芦田さんと森口さん

FM丹波で月々金曜午後4時から放送中の番組「七色バラエティ」のコーナー、第32回の2月24日に放送されました。今回は、大阪から草山に移住された芦田泰子さんと、京都市から中出に移住された森口あおいさんにお越しくださいました。三和町での暮らしについてお聞きしました。また、万願寺甘とう栽培などを主軸に頑張る農業女子の彼女たちに「農業の魅力」をたっぷり語っていただきました。下のQRコードを携帯電話・スマートフォンやタブレットで読み取り出てきたリンク先をクリックすると、内容をお聞きいただけます。(通信料がかかります)



笑顔が素敵な芦田さん(左)と森口さん

互近助サミットが 開催されました

2月11日に、あさぎ・ささゆりホール(兵庫県朝来市)で互近助サミット2022が開催されました。このサミットは、福知山市、丹波市、朝来市の三市連携協定を機に平成30年度から実施しており、3市の自治協議会、自治振興会などの役員や事務局が集い、相互に学び合う場で、今年度は「持続可能な農村(むら)づくり」をテーマとし、はじめに農村づくりプロデューサーである高橋信博さんの講演があり、集落をどうしていくかのデザインや人口増のためにすべきことなど、現場の支援経験に基づいた事例をお聴きました。その後、朝来市の与布土地域自治協議会より「農と地域について」の事例報告があり、与布土地域の現状と課題、地域運営そのものに関する話などを聞く中で、同じような課題をもたれていること(人員不足・地域の高齢化・イベントのマンネリ化・人員不足による運営危機など)がわかりました。事例報告後のグループ交流では、それぞれの協議会の活動のようすや地域づくりに関する悩みを発表し合い、今後の協議会運営に対して、色々なことに気づかせていただけた良い機会になりました。



互近助サミットの様子